

三鷹武蔵野 河村市長もビックリ 目玉企画のドローン撮影

【三鷹武蔵野・書記・三澤 克己通信員】6月12日、三鷹武蔵野市内の8会場で「第45回住宅デー」を開催。好天に恵まれ多くの来場者でにぎわ



左写真は井の頭分会を訪れた河村三鷹市長（中央）と藤倉分会長（右）。右写真はドローンで撮影した準備中の会場

い、全会場約1000人の組合員・家族が参加しました。井の頭分会では、分会長の藤倉さんが中心となって、会場の井の頭コミセンのグラウンドでドローンを飛ばして撮影した動画を会場で流したり、子ども向けにスーパードールすくいや輪投げなど、様々な工夫をこらした企画が行なわれていました。

来場者からは「子どもがスーパードールすくいを楽しめました」「いつも大変切れるように包丁を研いでもらえ」と喜ばれ、視察に訪れた三鷹市の河村市長からも「役員が非常に若く、ドローンのような先進的技術も取り入れていることに驚きました」と感想をいただきました。

目玉企画である自宅の屋根のドローン撮影は、「『屋根の修理をしませんか』と頻りに業者から声をかけられて不安だったので」と数人の市民

の方から申込みがありました。包丁研ぎ、まな板削りを始め今回のドローン撮影も、地域住民への貢献を通じて組合への信頼や仕事確保につなげていきたいと思えます。

世田谷 木工教室「楽しかった」 人気の包丁研ぎは行列も

【世田谷・書記・橋本祐典 記】世田谷支部では各地域で、5月15日からスタートして全11会場住宅デーを行ないました。最終日である6月12日は、3分会が規模を縮小して



木工教室の様子

また、小学生を対象にした木工教室は、サポータースタッフ会員を対象に予約制で開催し、参加した子供たちからは「楽しかった。またやってみたい」と物をつくる喜びを伝える事ができました。

駒つなぎ分会では、事業所から若手の社長・津野さんが包丁研ぎで参加。刃物を研ぐのが興味という事で群の役員に誘われて参加したそうです。「職人として、お客様と直接対面で接する機会はありませんので貴重な体験でした。先輩やジャンルの違う職人方と住宅デーを通じて同じ時間を共有できたことも刺激になりました」と津野さん。次回の住宅デーに向けて明るい話題となりそうです。

継続は進化なり 第45回住宅デー

【狛江・書記・高橋 那史記】狛江支部の住宅デーは、6月12日にオンラインと招集型の併用開催となりました。

昨年コロナ禍のためオンラインのみでの住宅デー開催となりましたが、今年地域要望でもあった包丁研ぎをコロナ対策をしたうえで、開催できる分で行ないました。イベントは支部事務所でオンライン住宅相

談とオンライン木工教室、分會では各地域で包丁研ぎを開催。当日参加できない人には、青年部に協力依頼をしてYouTubeの木工製作動画も作りました。

当日は支部会館に住宅相談員と木工講師、若手名が要員として参加。住宅相談1件、木工教室は動画配信型の申し込みも合わせて13件でした。木工教室の参加者からは、「楽しかった」「先生の教え方が上手で工作がうまくできた」などポジティブな感想や意見

をいただきました。今回の住宅デーでは様々な課題が見えてきましたが、この経験を活かして、コロナ禍で東京土建も新たな様式に対応して運動を進めていくことが大事だと思いました。

オンラインで工作にチャレンジ



最後に、青年部で作ったYouTube木工製作動画を左の二次元コードを読み込んで、ぜひ視聴ください。動画がいいと思ったら方はチャンネル登録と高評価をよろしくお願います。

【町田・書記・赤間晋務通 信員】町田支部では、先陣をきって本町田野津田金井分会が6月12日、市内中心部にある菅原神社駐車場第45回住宅デーを開催。朝から晴れ上がり、絶好のコンディション。分会長、仕事対策部長などの役員が中心となり、会場運営を行ない、午前10時から来場者を出迎えました。



休む暇なくまな板削り

町田 多彩な催しで御迎 2万枚チラシで宣伝

包丁研ぎ、まな板削り、住宅相談などのメイン企画に加え、フリーマーケット、新鮮野菜販売、コッパティ木工教室、モザイクタイルなど多彩な催しもので来場者をお呼び込みました。分会地域周辺に2万枚の新聞折込をいれたこともあり、来場者は午前中だけで90人を数え、包丁研ぎ、まな板削りの担当者は、休む暇もなく作業を続けました。大隈分会長は、「久しぶりに開催することができてよかった。準備を万全とし、組合員、家族の協力で、コロナ禍以前の開催よりさらに前進した住宅デーができた」と喜びをかみしめました。

西多摩 お祭りムードに笑顔 会場内外に槌音響かせて



お祭りムードのあきる野2会場

【西多摩・書記・松井民人 記】西多摩支部の住宅デーは6月5・12日、16分17会場で開催しました。6月5日、あきる野ルピア前広場にやぐらを設置して提灯をぶら下げ、参加した仲間が半でん姿で統一したあきる野第2分会は、やぐらの周りに子どもたちが楽しめるゴム鉄砲の射的、輪投げ、スマートボールなどを配置し、お祭りムード一色。子ども工作教室もオリジナルの道具箱やポトルホルダーをつくらうと親

調布 例年以上の反響が 来場ついでに住宅相談も

【調布・書記・井上裕行通 信員】6月12日に3年ぶりとなる春の住宅デーを開催しました。開催の可否について実行委員会で討議を重ね、調布市の感染防止ガイドラインと踏まえたうえで、包丁研ぎ、まな板削り、住宅相談の3企画に絞り、検温・飛沫防止パ

ネルの設置・来場者名簿の作成を徹底しました。春は分会ごと開催ということもあり、分会内での討議の結果で未開催を判断せざるを得ない分会もあり、7分会5会場となりました。3年ぶりの開催で来場者の反応に不安がありました。例年以上

の反響があり、特に包丁研ぎの依頼については開催してくれるのを待っていたとの声が多く、例年の倍以上の件数だった会場もあり、包丁研ぎに来たついでに住宅相談をする来場者も見受けられました。工作教室など子ども向けの企画を行なわなかったため、子育て世代の若い世代の来場者が少なかつたものの、地域住民とふれあい、地域に貢献することができた一日となりました。